

2026
1/20
TUE



概要

遊びは子ども自身が面白さを見出し、追究していく活動です。

保問研あそび分科会では、これまで一貫してこの「面白さの追究」という

側面を大切に、面白さを加える・広げる・深めるといった援助のあり方を探ってきました。

また今日では、「遊びの重要性」が広く語られるようになっていきます。しかしその多くは、「遊びは大切。なぜなら、それが学校教育への準備となる学びに繋がるから」という、いわば留保付きの賛辞として語られています。

「遊びは大切」という言葉には誰もが頷ぎたくなりますが、もし遊びが「学校の準備のための道具」として扱われるとしたら、その瞬間に遊びは本来の意味を失ってしまうのではないのでしょうか。

とはいえ、「遊びに意味づけをするなんてナンセンス。面白ければそれでいい」という立場にも、もはや立ち止まることはできません。

遊びは子どもの権利であるということを前提にしながら、幼児教育の中で遊びをどのように位置づけていくのか、そして、「面白さの追究」だけでよいのか。今、私たち自身の遊びへのまなざしが改めて問われています。

この講座では、季刊保育問題研究331号の論考「新しい遊びの危機に向きあう」で紹介した、近年の「遊びと学び」を結びつける研究動向を手がかりに、これからの遊びのあり方を皆さんと一緒に考えていきたいと思います。



講師 田中浩司さん

日時 2026年1月20日(火)

19:30～21:00

参加費 東京保問研正会員 無料

その他の方 1000円

申し込みフォーム



*本講座はオンライン(zoom)で行います。申し込み後、zoom URLやIDをお知らせいたします。
*この件のお問い合わせにつきましてはtokyohomonken@yahoo.co.jpまでお願いいたします。